



2030生物多様性枠組実現日本会議 (J-GBF)
第5回地域連携フォーラム (2025/11/27)

人と自然が共生するまち

ネイチャーポジティブの実現に向けて

北海道夕張郡栗山町

1 北海道栗山町の概要



【町名の由来】

ヤム・ニ・ウシ = 栗の木の繁茂しているところ

【町制施行】1949（昭和24）年（旧角田村）

【人口】10,531人（2025.4.1）

【世帯数】5,653世帯（2025.4.1）

【面積】203.93平方キロメートル

●山林 71.37平方キロメートル

【基幹産業】

農業（米、小麦、たまねぎ、種子馬鈴薯 など）

●農家戸数 332戸

●農用地面積 田 3,727ヘクタール 畑 1,813ヘクタール
（2020北海道統計）

2 栗山町におけるこれまでの取り組み

栗山町では、ハサンベツ里山20年計画事業、夕張川魚道整備や稚魚放流事業、ゼロカーボンシティ宣言、ごみ分別（リサイクルの推進）をはじめとする、環境保全の活動が進められています。

【環境保全に資する取り組み（自然環境教育、環境・エネルギーなど）】

- 1985（昭和60）年～
国蝶オオムラサキの発見、町民と行政による町ぐるみの運動の始まり
- 2001（平成13）年
官民協働による「ハサンベツ里山20年計画」策定、計画を具現化するため「ハサンベツ里山計画実行委員会」を設立
- 2004（平成16）年～
ごみ処理有料化を導入（ごみの適正分別・リサイクルの推進）
- 2007（平成19）年～
栗山青年会議所などを中心にサケの稚魚放流会を実施
- 2008（平成20）年～
コカ・コーラ教育・環境財団の支援を受け、延べ1,500人の町民ボランティアの参加のもと、雨煙別小学校の再生に取り組む
- 2010（平成22）年
「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」正式オープン
- 2015（平成27）年
栗沢頭首工に魚道（サーモンロード）が整備される
- 2018（平成30）年
雨煙別川が「かわまちづくり計画」として登録
- 2021（令和3）年
「COOL CHOICE（＝賢い選択）」に栗山町が賛同
- 2023（令和5）年
「ゼロカーボンシティ宣言」を表明、栗山町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定、木材企業4社と「栗山町企業の森林（もり）づくりに関する協定」を締結



国蝶オオムラサキ



サーモンロード



雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス

3 栗山町ネイチャーポジティブ宣言を表明

栗山町では、1985（昭和60）年に国蝶オオムラサキが発見されたことを契機に、ハサンベツ里山20年計画事業や、雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスを拠点とした、ふるさと自然教育など、自然環境保全・再生を目指す取組が進められ、これらの取組は、唯一無二の栗山ブランドとなっています。

このような取組を踏まえ、栗山商工会議所青年部・栗山青年会議所・夕張川自然再生協議会・栗山建設協会が提起された「栗山町ネイチャーポジティブ宣言」を、2024（令和6）年9月14日に北海道の地方公共団体に先駆け、町の政策方針として表明しました。



栗山町ネイチャーポジティブ宣言

近年、地球規模で生きものの絶滅が急速に進み、生物多様性が失われ続けています。

国際社会では、自然と共生する世界を実現するため、生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」が国際目標に設定されました。

我が国においても、新たな国際約束の達成のため「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定され、自然を活かした地域づくりや一次産業等の推進、希少種の保全、陸・海域の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する「30 by 30」の達成などが目標に設定されました。

本町ではこれまで、ハサンベツ里山20年計画事業、夕張川魚道整備や稚魚放流事業、ゼロカーボンシティ宣言、ごみ分別（リサイクル）の推進をはじめとする、環境保全の活動を進めてまいりました。

このような活動が持続可能な発展を遂げていくためには、長い時間をかけて形成されてきた多様な生態系を保全し続けていくことが必要であります。

栗山町は、以下の3つの目標のもと、町民、関係機関・団体（事業者を含む）、町が共に豊かな生物多様性を次世代に継承し、未来を守るための取組を積極的に行い、自然を回復軌道に乗せるための「ネイチャーポジティブ」の実現を目指す意志を示すため、ここに「栗山町ネイチャーポジティブ宣言」をいたします。

1. 自然を守り、次代につなぐまちづくりを進めます。
2. ゼロカーボンの実現に向かうまちづくりを進めます。
3. 資源を大切にすまちづくりを進めます。

令和6年9月14日

北海道栗山町長 佐々木 学

4 栗山町第7次総合計画「生物多様性の保全を普及推進します。」



■政策区分

1 生活環境 (2) 環境・エネルギー
施策

② 生物多様性保全の普及推進

No.	計画事業	事業概要
154	生物多様性の保全を普及推進します。	生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現に向けた取組の展開

【事業目的】

生物多様性の保全を普及推進することにより、町民と自然が共生する持続可能なまちづくり意識の醸成を図る。

【事業概要】

- ①研究会（協議会）の設立及び協議
- ②イベント・啓発活動の実施
- ③関係機関・団体（事業所）・町などによるネイチャーポジティブに資する取組の実施
- ④環境省「自然共生サイト」の認定
- ⑤（仮称）環境基本計画の策定
- ⑥環境基本条例の制定

【期待する成果】

町民への生物多様性の保全に対する普及促進を図ることにより、豊かな生物多様性が次世代に継承され、多様な生態系が保全し続けていく。

栗山町第7次総合計画

令和5年度～令和12年度

ふるさとは栗山です。

～みんなが元気なまち～

概要版

北海道栗山町

5 令和7年度の取り組み～これまでの取組



■ 北海道地方環境事務所視察 (5.14)

【目的】

栗山町における「自然共生サイト」登録に向けた現地視察等

【視察場所】

- 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス
廃校の雨煙別小学校（2階建木造校舎）を改修した環境教育の拠点施設。環境教育等促進法に基づく「体験の機会のある場」に北海道内で初めて認定。
- ふるさといきものの里オオムラサキ館
オオムラサキを身近に観察できる飼育舎を備えた、自然と人間の共生をテーマとした学習や交流活動の拠点施設。
- 栗沢頭首工魚道（サーモンロード）
「サケの自然回帰」を「ふるさとの川 夕張川」を再生していく事業を契機として整備される。2015（平成27）年秋に、72年ぶりに栗山町の川にサケが遡上。
- ハサンベツ里山地区
「童謡の唄が聴こえる里山づくり」をコンセプトに、町民が主体となり、官民協働で「できることからやろう！」「知恵・労力・資材・資金を生み出して持ち寄ろう！」という自由度の高い活動を基本に活動。5月から11月までの毎月第2日曜日は「ハサンベツの日」。



■ ネイチャーポジティブの集い (6.2)

【目的】

「ネイチャーポジティブ」をテーマに、その概念を理解し、どのように実践に移せば良いのかを学び考える

【主な内容】

- 栗山町におけるネイチャーポジティブ事業の説明
- 中田環境副大臣による講演

【来場者】

152人



6 令和7年度の取り組み～サケが帰ってくる川づくり



(経過)

○栗山青年会議所メンバーが、魚道のなかった清幌床止の下流までサケが遡上してきていることを知る。

○「サケの自然回帰」を「ふるさとの川 夕張川」を再生していく事業のシンボルとして活動が始まる。

○2014 (平成26) 年

栗山町八サンベツ里山計画実行委員会が、国土交通省より「河川協力団体」の指定を受ける。

○2015 (平成27) 年

栗沢頭首工に魚道 (サーモンロード) が整備される。

秋に、72年ぶりに栗山町の川にサケが遡上。

○2018 (平成30) 年

夕張川流域の雨煙別川が「かわまちづくり計画」として登録

○2025 (令和7) 年

夕張川自然再生協議会が、国土交通省より「河川協力団体」の指定を受ける。

(主な取組)

○夕張川フォーラム・シンポジウムの開催

○サケの里親事業及びサケの稚魚放流会の実施

○夕張川流域での小中学生を中心とした川体験学習の実施

○サケの見える化プロジェクト～故郷の川クリーン大作戦～ (河川清掃など) の実施

○サケなどの産卵床調査及び産卵床形成のための市民工事の実施



サケの稚魚放流会

寄附型自動販売機 ベネフィット・ベンダー設置

北海道コカ・コーラボトリング株式会社が提供する夕張川再生基金専用自動販売機事業。

ドリンクの購入費用から一部を夕張川自然再生に援助することができる。

令和7年9月現在、栗山町内では14カ所で利用できる。

6 令和7年度の取り組み～サケが帰ってくる川づくり



故郷の川 クリーン大作戦

(目的など)

○自然豊かな夕張川のすばらしさを認識し郷土愛の醸成を図り、誇り溢れる故郷を次世代に繋いでいく。

○サケが自然産卵をしやすい環境を整備するとともに、地域住民などの川への愛着・関心を引き寄せる。

(実施内容)

今年「ネイチャーポジティブ・アクション2025」と銘打ち、企業や事業所が社会や環境と共存しながら持続可能な成長を目指すための取組である「CSR活動」がしやすいように、平日に開催。

(実施日及び実施場所)

令和7年9月19日（金曜日） 夕張川支流雨煙別川

(参加者数)

112人（参加企業・団体数 36社）



クリーン大作戦 1



クリーン大作戦 2

JCI

“きれいな川”は
手を汚す人がつくっている

御社のCSR活動を「地域の未来」へつなげませんか？
参加することで社員の誇りと企業の価値が高まります

ネイチャーポジティブ・アクション2025
故郷の川

クリーン大作戦
9月19日（金）開会:14時30分

主催・お問合：一般社団法人 栗山青年会議所
0123-73-2345

集合場所：栗山天満宮（桜丘2丁目32番地）
栗山公園第3駐車場をご利用ください

参加申込

持ち物 ●軍手 ●長靴 ●汚れても良い動きやすい服装

参加無料 ※小雨決行
受付:14時～ 閉会:16時

清掃区間：夕張川支流雨煙別川 山の手橋→中央橋

主催：一般社団法人栗山青年会議所 共催：夕張川自然再生協議会
協力：ハゼンベツ里山村実行委員会 / NPO法人雨煙別学校 / 栗山商工会議所青年部 / 雨煙別川かわまちづくり協議会 / 栗山建設協会 / 一般社団法人流域生態研究所
協賛：北海道コカ・コーラボトリング株式会社 後援：栗山町 / 栗山町教育委員会

7 令和7年度の取り組み～くりやまネイポジポカード「ポジポ」



「ポジポ」の概要

これまでの（栗山駅前通り）商店街ポイントカード「栗夢カード」と、町内共通商品券「くりやまギフトカード」が一つとなったカードが、「くりやまネイポジポカード」となり、愛称は「ポジポ」です。

買い物やサービスを利用することでもらえるポイントを貯めてお得に買い物ができる「ポイントカード」に、カードやスマートフォンアプリに現金をチャージして利用できる「電子マネー」、さらに電子マネーがチャージされた贈答用の「ギフトカード」が備わった地域限定の電子通貨・ポイントカードになります。

使用できる地域が限定されるため、栗山町の地域経済の好循環が期待できる仕組みとして令和7年11月1日よりスタートしました。

「くりやまネイポジポカード」の由来

「くりやまネイポジポカード」は、くりやまネイチャーポジティブポイントカードの略称で、北海道の地方公共団体に先駆けて表明した「栗山町ネイチャーポジティブ宣言」に掲げる「自然を守り、次代につなぐまちづくり」に貢献するカードを目指していくため、この名称を採用しました。



北海道建設新聞 2025(令和7)年8月28日(木) 道北・空知 版 朝刊

栗山町、健康づくりや環境保全でポイント付与 日常の買い物に使用可能

【岩見沢】商店街の真境が進む中、町内での消費やイベント支援、行政が主導する健康づくりや環境保全活動などをポイントとして付与し、日常の買い物に使うことができる新たな挑戦が栗山町で始まった。商工業、建設業、行政が一体となり「くりやまネイポジポカード会」を設立。26日の設立総会では、11月1日のサービス開始に向け、事業計画と初年度予算を承認した。経済循環と環境に配慮した持続可能な社会づくりを同時に推進する先進事業として関心を集めた。

「くりやまネイポジポカード会」設立

会長には地元企業で環境を衰えるばかり。町に変化を販売するそらの木藤浩呼び込む新しい仕組みをつ「社長が就任」地域商業はくりやまネイポジポカードは、後継者不足や購買行動のCチップ付きカードとスマートフォンアプリを組み合わせた地域専用電子通貨・ポイントカード。買い物でのポイント付与だけでなく、町の行政ポイントとして交通安全教室や子育て支援、移住・定住促進ボランティア、ゼロカーボン、ごみ分別説明会参加、健康受診など、住民の生活行動やまちづくり活動を幅広く評価しポイントを還元する。たまったポイントは買い物設立総会には現109名員のうち62名が出席した

や商品券交換、環境保全への寄付にも使える。町商工観光課の石森和幸は「日常の行動が地域や自然環境を守る力になる仕組み。対象事業も段階的に拡大したい」と意欲を語る。建設業界も関与活動を見える化プロジェクトには建設業界も積極的に関与する。栗山建設協会の廣岡延博会長は「建設業は道路や橋、河川、防災・除雪など地域の基盤を支えるが、その価値は日常では見えにくい。カードを通して住民とつながり、地域を支える仕事を理解してもらいたい」と話す。同建設協会は、町が2024

年に市内の自治体で初めて宣言した「ネイチャーポジティブ（自然再興）」策定にも他団体と共に要請書を提出。廣岡会長はカード事業は公共事業の枠を超えた建設業の存在意義を町民に示す好機になると強調する。加賀する建設業者がカード事業で活動を見える化することで、若い世代が建設業の役割や地域貢献に関心を持つきっかけづくりにもつなげる考えだ。

ネイポジポカードは、長年運営してきた「栗夢カード会」や「ギフトカード会」を統合し、商業振興・行政施策・ボランティア活動を一体化させた「循環型カード」として再構築した。ネイチャーポジティブ宣言を表明している同町。生物多様性保全やゼロカーボンのまちづくりを進め、カード事業はその政策を市民生活に根付かせる具体的な施策と位置付けられている。

導入合わせて約3,200万円。国や町の補助金などを活用し、加盟店端末の整備、カード製作、利用促進イベントを展開する。年間発行目標は360万枚（売り上げ換算3億6000万円）を想定する。

デジタルツールで地域資本の循環を

カード会役員には、商店経営者や飲食業者、建設業者など多彩なメンバーが名を連ねる。木藤会長は「地域の魅力を共有し価値を高める時代。デジタルツールはそのための道具」と話し、廣岡会長も「地域資本の循環を町民に見える形で示し町を支える産業の意義を次世代へ伝えたい」と力を込めた。

町は、加盟店拡大や利用促進キャンペーン、自然再興ポイント制度の強化を進め、「住民参加型まちづくりモデル」として全国に発信していく方針だ。

7 令和7年度の取り組み～くりやまネイポジポカード「ポジポ」



「ポジポ」の主な特徴

1. ポイントカードとして

加盟店での買い物ポイントや販促特典ポイントに加え、新たに行政・地域団体から付与されるポイントが追加されます。

【ポイントを貯める】

○買い物・サービス利用

買い物の際、100円ごとに1ポイント貯まる。

○販促特典イベント

くりやまネイポジポカード会が主催する特典イベントでポイントが進呈される。

○加盟店の独自イベント

加盟店ごとの販促イベントでポイントが進呈される。

○まちづくりへの参加

町主催イベント等に参加することで、まちづくり応援ポイント「くりポ」(3 栗山町まちづくり応援ポイント「くりポ」参照)が進呈される。

○地域団体のイベント参加

町内団体・企業等が実施するイベントなどに参加することで、ポイントが進呈される。

【ポイントを使う】

○買い物で

1ポイント=1円で、加盟店で買い物・サービスなどに利用できる。

※ポイントの有効期間は、翌年度の3月末まで(最大2年間)

○イベントで

くりやまネイポジポカード会主催の抽選会・イベント等で利用できる。

2. 電子マネーとして

現金をチャージして、そのまま買い物ができます。

○チャージ上限額 50,000円

※1回につき最大20,000円(500円単位での入金)

○チャージ場所 まちの駅「栗夢プラザ」

3. ギフトカードとして

電子マネーがチャージされた贈答用のプリペイドカードとして利用できます。

○販売単位

500円、1,000円、3,000円、5,000円、10,000円

○販売場所 まちの駅「栗夢プラザ」

○有効期限 購入の日から6か月

☆「ポジポ」加盟店数☆

令和7年10月末時点で、106事業所。



ネイチャーポジティブイメージキャラクター
「だいだらポジ」

7 令和7年度の取り組み～くりやまネイポジポカード「ポジポ」



栗山町まちづくり応援ポイント「くりポ」

【目的】

栗山町行政ポイント事業として、行政サービスと「くりやまネイポジポカード（ポジポ）」が連携することで、地域内の消費創出による産業振興や、行政サービスの効果的な推進、町民参加を促し、総合的な町政推進を図る。

産業振興（地域内循環）×行政サービスの効果的推進×町民参加の促進

（「くりポ」の主な特徴）

＜「くりポ」を貯める＞

まちづくりや環境保全、ネイチャーポジティブへの貢献につながる行動でポイントが貯まる。

- 町政・まちづくり推進ポイント
 - ・町主催事業等参加ポイント
 - ・ボランティア参加ポイント
- ネイチャーポジティブ推進ポイント
 - ・ゼロカーボンアクションポイント
 - ・環境保全アクションポイント
- 健幸のまち推進ポイント
 - ・健診（検診）参加ポイント
 - ・健幸推進ポイント
- 町民応援ポイント
 - ・節目記念に対する付与ポイント

＜「くりポ」を使う＞

くりやまネイポジポカード（ポジポ）に貯まった「くりポ」は、「ポジポ」加盟店で、1ポイント＝1円として使用することができる。



くりやま暮らし応援電子商品券

【目的】

エネルギーや食料品などの物価高騰により、影響を受けている町民の日常生活を支援する。

【配布】

くりやまネイポジポカード（ポジポ）の電子マネーとし、2,000円が入金されたポジポカードを配布する。

【電子商品券の使用】

- 使用店舗
 - くりやまネイポジポカード会加盟店舗
- 使用範囲
 - 食料品や燃料等の購入、飲食、その他サービスの利用など
- 使用方法
 - 店舗でカードを提示して、電子マネーで支払うことを伝える
 - ※1円単位で使用可能
 - ※電子マネーの残高不足の場合、現金などとの合算で使用可能
- 使用期間
 - 令和7年11月1日～令和8年2月28日
 - ※今回配布する電子マネーの期間
 - ※電子マネー使用後のカードは、引き続き「ポジポカード」として使用

8 ネイチャーポジティブの実現に向けて



栗山町では、町民有志が中心となって活動を展開している取組がたくさんありますが、このような取組が持続可能な発展を遂げていくためには、長い時間をかけて形成されてきた多様な生態系を保全し続けていくことが必要です。そのためには、町民、関係機関・団体、町がそれぞれの役割を担いながら、取組を進めていくことが重要です。

【町民、関係機関・団体、町の役割】 (町民)

自らが有する良好な環境のもとで健康で文化的な生活を営む権利を、将来の世代に継承する役割を担う。

(関係機関・団体 (事業者))

地域社会の一員として、環境への負荷の少ない社会を形成する役割を担う。
(町)

よりよい環境づくりを進めるための中心的な役割を担う。

【目指すべき将来像】

人と自然が共生するまち くりやま

【基本目標】

(基本目標1) 自然を守り、次代につなぐまちづくり

～自然環境の保全・再生、河川環境の整備

(基本目標2) ゼロカーボンの実現に向かうまちづくり

～地球温暖化対策の推進、持続可能な農業生産体制の構築、森林の保全・整備

(基本目標3) 資源を大切にすまちづくり

～ごみの減量化・資源化の推進

最終的に目指す取組

■環境省「自然共生サイト」の認定

環境省が令和5年度から「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定。

令和7年4月からは、自然共生サイトを法制化した「地域生物多様性増進活動促進法」に基づく実施計画により認定された区域が「自然共生サイト」となる。

ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みの一つで、認定区域はOECDとして国際データベースに登録される。

※OECD

法令によって自然が守られる保護区域ではなく、人々が生業や民間の自発的な取り組みによって自然が守られている地域。企業の管理する水源の森や、地域が管理する里地里山などが該当。

■「環境基本計画」を策定

環境の保全等に関する施策を進めるための指針を定める。

■「環境基本条例」の制定

環境の保全等に関する基本的事項を定める。